

令和7年度大阪府感染症対策審議会
麻しん及び風しん対策部会

麻しん・風しんの 対策について

大阪府 健康医療部 医療・感染症対策課
感染症対策グループ

風しん対策について

➤風しんワクチンは、接種を受けた者の約95%以上に風疹抗体の陽転がみられ、二回接種後は99%以上が抗体陽性となると報告されており、風しんの予防のためには、予防接種が最も有効な予防方法と言える。

➤国、都道府県、市町村において、

①定期予防接種

②風しんの追加的対策(令和6年度末で終了)

③先天性風しん症候群対策

を通じて、風しん対策に努めている。

風しん対策

	定期予防接種	風しんの追加的対策 ※R6年度で終了	先天性風しん 症候群対策
概要	集団予防を目的として予防接種法上の定期接種A類に位置づけられており、主に小児を対象に実施。	これまでワクチン接種の機会が一度もなかった世代の男性を対象にクーポン券を送付し、抗体検査、予防接種を実施	妊娠を希望する女性、その配偶者等に抗体検査を実施。抗体価が低い方へは、ワクチン接種に係る費用を補助。
主体	市町村	市町村	抗体検査：府・政令市 予防接種：市町村
財源	国費 (交付税措置)	国費	国補助金(1/2) ※予防接種は単費

定期予防接種

- 予防接種法に基づく定期接種として、市町村が実施主体となり予防接種を実施。
- 定期接種率の目標を第1期、第2期それぞれ95%以上が目標

【対象者】

第1期: 1歳の1年間（1歳の誕生日の前日から2歳の誕生日の前日まで）に1回接種

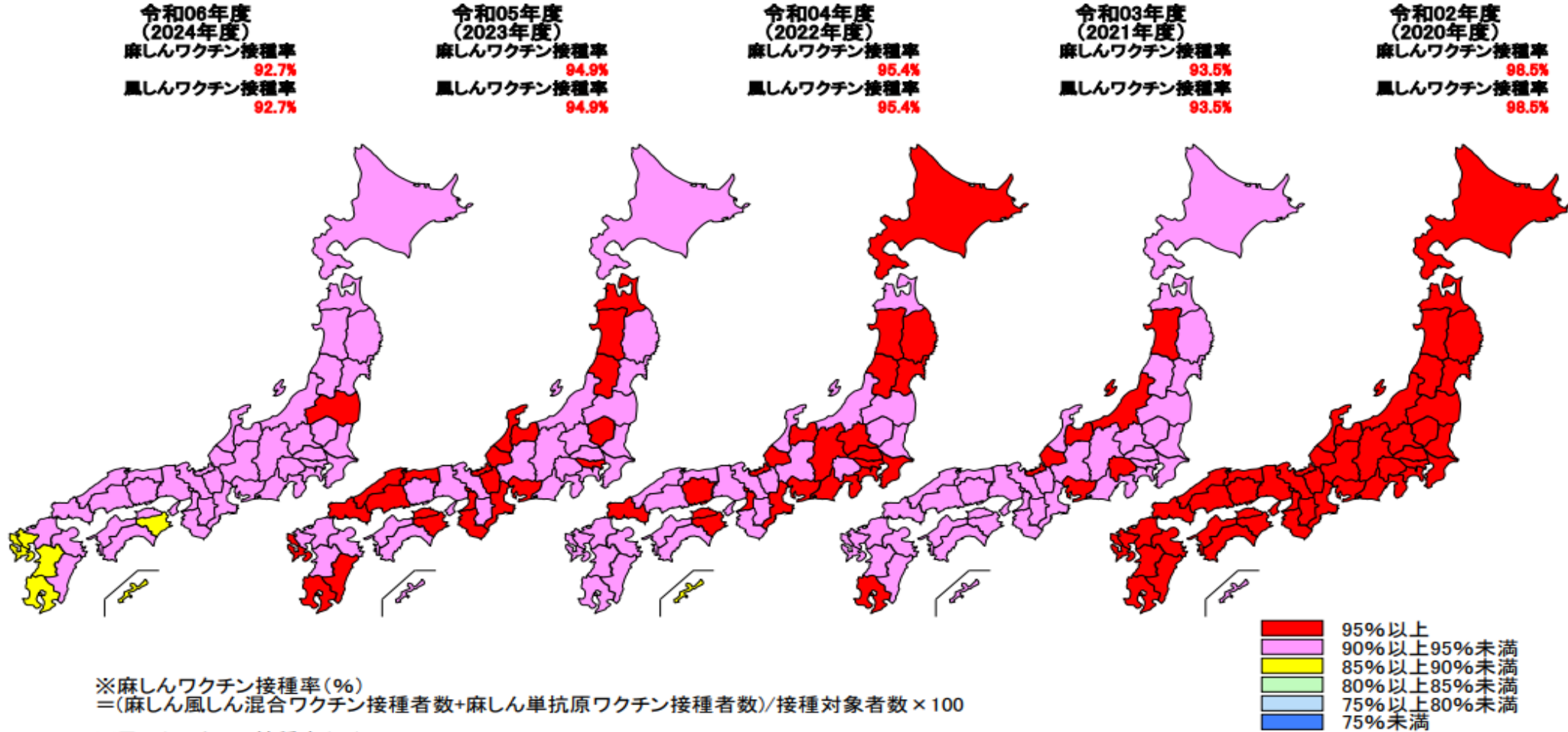
第2期: 5歳以上7歳未満で、小学校入学前の1年間の間に1回接種

【予防接種の接種率（％）】（上段：府 下段：全国）

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
第1期	95.1	97.0	97.3	99.3	94.0	99.9	93.4	95.4	96.0	93.5
	(96.2)	(97.2)	(96.0)	(98.5)	(95.4)	(98.5)	(93.5)	(95.4)	(94.9)	(92.7)
第2期	92.2	92.8	93.2	94.4	94.0	93.8	92.3	92.0	91.8	91.4
	(92.9)	(93.1)	(93.4)	(94.6)	(94.1)	(94.7)	(93.8)	(92.4)	(92.0)	(91.0)

定期予防接種

第1期 麻疹風しんワクチン接種状況



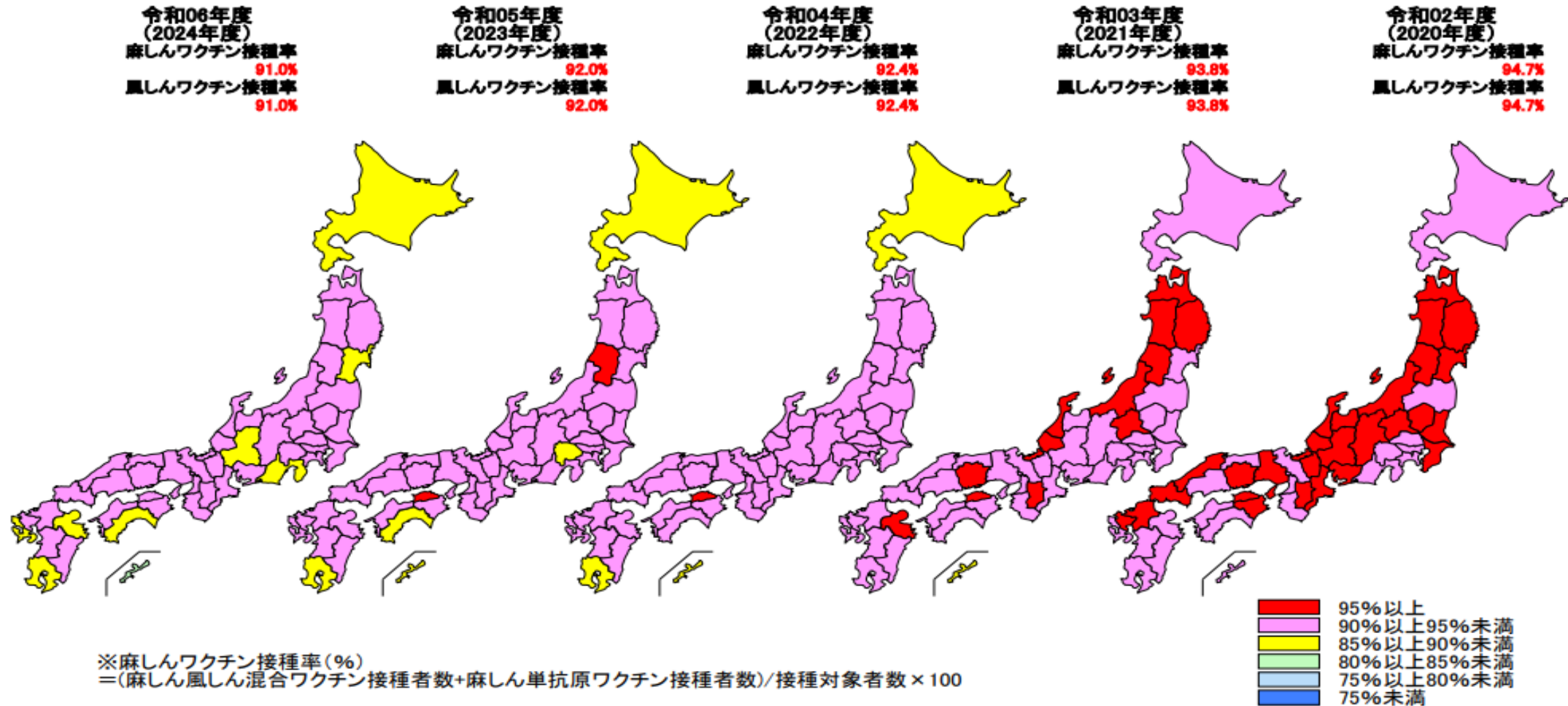
※麻疹ワクチン接種率(%)
=(麻疹風しん混合ワクチン接種者数+麻疹単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100

※風しんワクチン接種率(%)
=(麻疹風しん混合ワクチン接種者数+風しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100

※地図は麻疹ワクチン接種率に基づく色分け

定期予防接種

第2期 麻しん風しんワクチン接種状況



※麻しんワクチン接種率(%)
=(麻しん風しん混合ワクチン接種者数+麻しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100

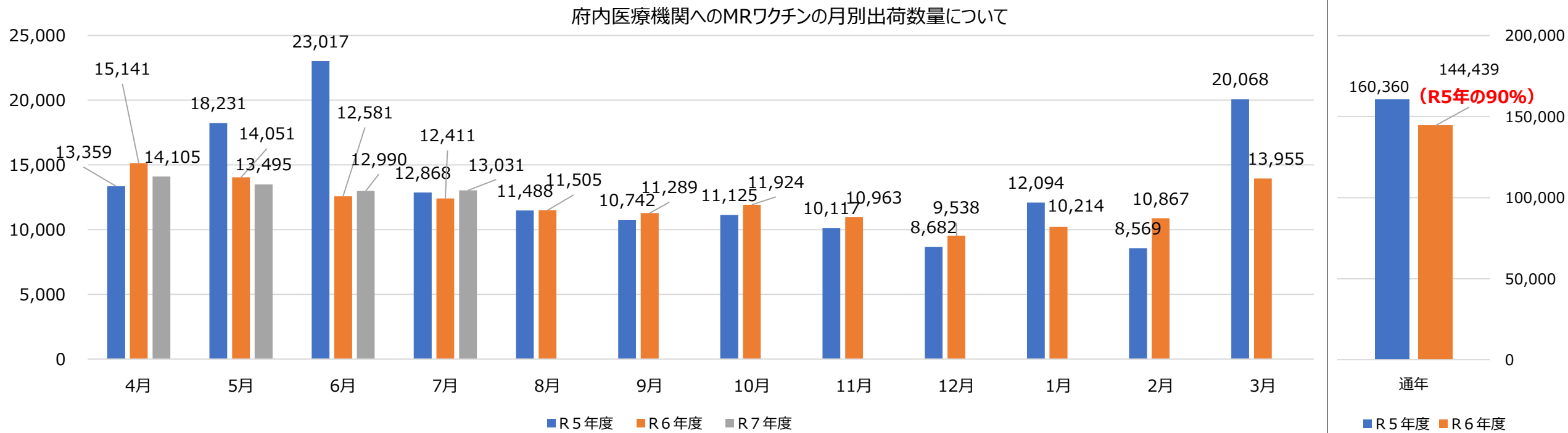
※風しんワクチン接種率(%)
=(麻しん風しん混合ワクチン接種者数+風しん単抗原ワクチン接種者数)/接種対象者数×100

※地図は麻しんワクチン接種率に基づく色分け

定期予防接種

ワクチンの供給量と特例措置について

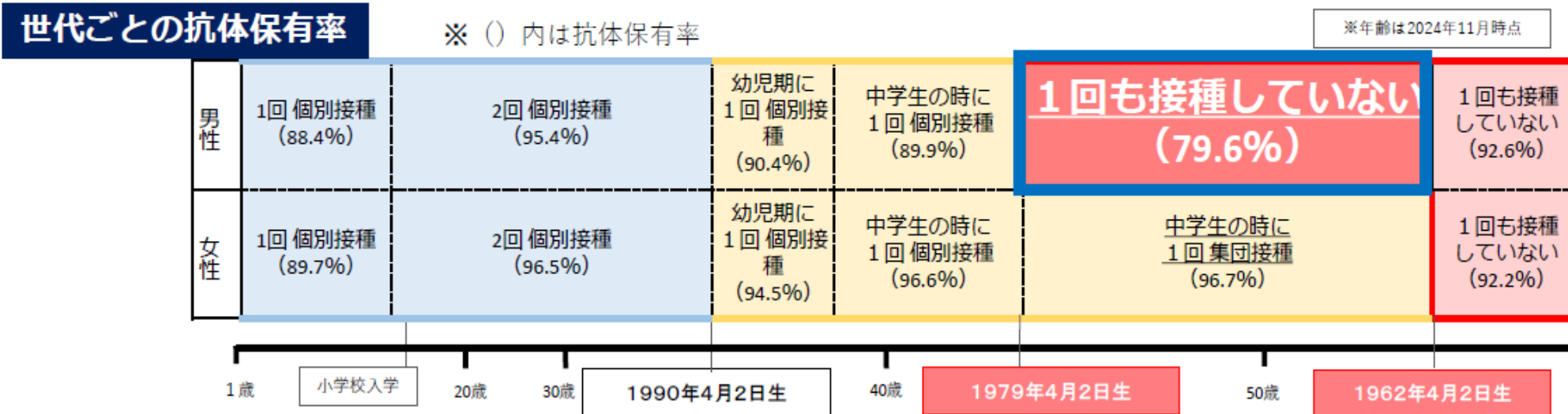
- 武田薬品工業株式会社のMRワクチンの出荷停止を受け、第一三共株式会社及び阪大微生物病研究会による前倒し出荷等が行われている状況。
- 例年と同程度の供給量が確保される見込みであるものの、令和6年度中においては一部の自治体及び医療機関において、MRワクチンの供給が行き届いていない状況であった。
- そのため、令和6年度に定期接種の対象者であったものは、予防接種法施行令第3条第2項に規定する「特別の事情」に基づき、令和7年4月1日から令和9年3月31日までの2年間、接種対象期間を超えて接種を行って差し支えないこととされた。



【報告①】風しんの追加的対策

※令和6年度末で終了済み

- 過去に公的に予防接種を受ける機会がなかった、特に抗体保有率が低い昭和37年(1962年)4月2日から昭和54年(1979年)4月1日生まれ(令和7年度45歳から62歳)の男性に対し、予防接種法に基づく定期接種の対象とし、令和元年度から令和6年度まで全国で実施していた。
- ワクチンの効率的な活用のため、まずは**抗体検査**を受け、抗体価が低い方に対し予防接種を実施。



【出典】国立感染症研究所「年齢/年齢群別の風疹抗体保有状況」2013-2017年をもとに算出(10歳以下のみ2017年のデータで計算)

目標

- 【対象】 1962年4月2日～1979年4月1日生まれの男性(令和6年度45歳から62歳)
- 【目標】 (1) 2022年12月までに、対象世代の男性の**抗体保有率を85%**に引き上げる。
(2) 2024年度末までに、対象世代の男性の**抗体保有率を90%**に引き上げる。

【報告①】風しんの追加的対策

※令和6年度末で終了済み

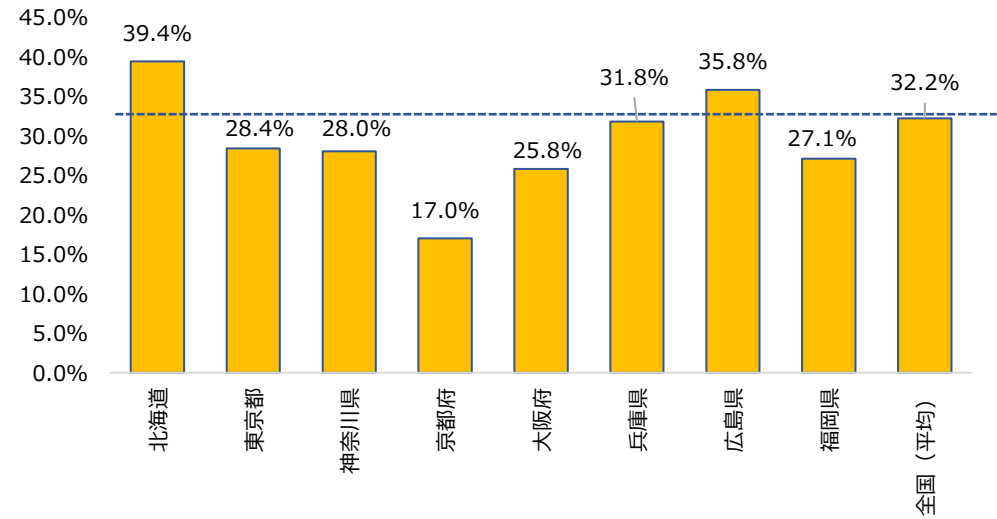
【抗体検査・予防接種の実施状況(全国)】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	実績累計
抗体検査	約125万人	約177万人	約85万人	約53万人	約29万人	約27万人	約495万人
予防接種	約27万人	約36万人	約20万人	約12万人	約6.5万人	約5万人	約107万人

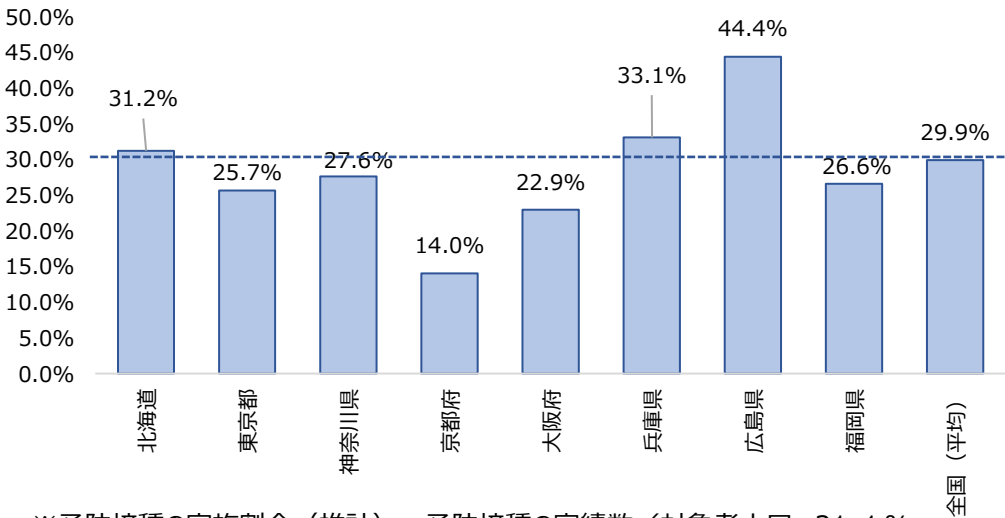
※クーポン券により実施された抗体検査数のみであり、自治体が独自に実施した抗体検査の人数を含まない。クーポン券を利用した件数（国保連が処理した実績件数）令和7年3月現在

【抗体検査受験率と予防接種受験率】

抗体検査受験率（主要都道府県）



予防接種実施割合（主要都道府県）



※予防接種の実施割合（推計）＝予防接種の実績数／対象者人口×21.1％

【報告①】風しんの追加的対策

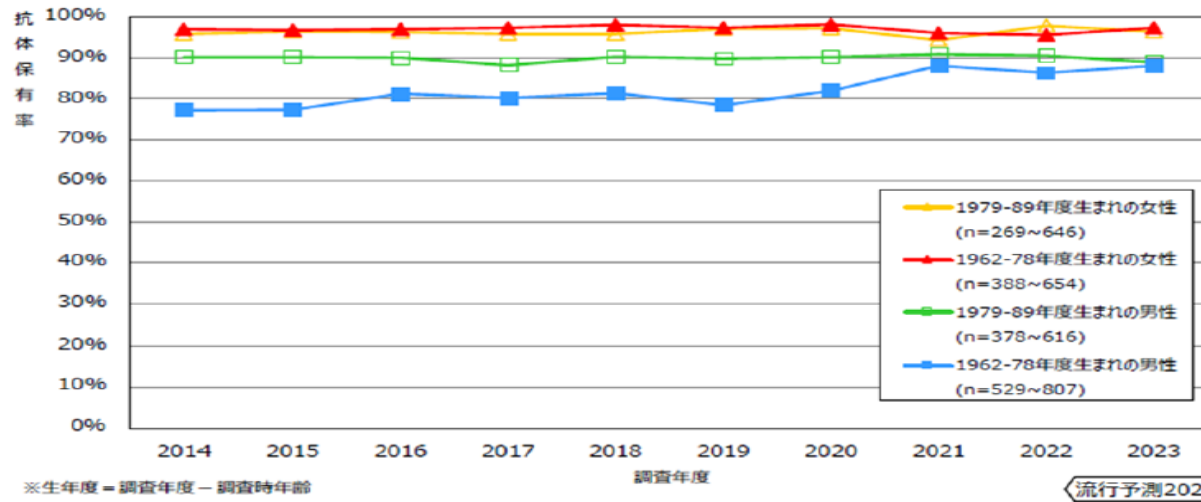
※令和6年度末で終了済み

進捗

対象世代の男性（1962年度－1978年度生まれの男性）の抗体保有率（暫定値）：**88.1%**

出生年度別風疹HI抗体保有状況(抗体価1:8以上)の年度推移

2023年度時点（2025年1月集計の暫定値）



2018年度：81.1%（95%CI：78.0～84.2%）

2019年度：78.1%（95%CI：74.6～81.6%）

2020年度：82.1%（95%CI：79.2～85.0%）

2021年度：87.9%（95%CI：85.7～90.1%）

2022年度：86.6%（95%CI：84.3～89.0%）

2023年度：88.1%（95%CI：85.6～90.6%）（暫定値）

出典：国立感染症研究所 2014～2022年度感染症流行予測調査（2023年度は2025年1月集計の暫定値）

5

追加的対策の終了と今後の風しん対策について

- 最新（2023年）の当該世代の抗体保有率は暫定値で88.1%となりWHOが定める集団免疫閾値を超え、CRSは直近3年間発生がない状況、また風しん発生報告数も過去最低値であり、風しんの感染拡大防止の施策目的は達成されていると評価できる。
- このため、追加的対策は、2024年度までの時限的なものであるところ、**当初の予定どおり今年度で終了とする。**
- 引き続き、風しんのまん延及びCRSの発生を防止することは重要であるため、来年度以降も妊娠を希望するとする女性等に対する風しん抗体検査の助成や、小児への定期予防接種、それらの周知啓発を行う等、自治体と連携した風しん対策を継続して実施する。また、国内での風しんの発生状況等を注視し、必要に応じて対策の見直し等検討を行う。

※国審議会資料より

【報告②】先天性風しん症候群対策事業

- 大阪府及び政令・中核市は妊娠を希望する女性等に対し無料の抗体検査を実施。
- 風しんに対する抗体を有しない人を抽出することで、効果的かつ効率的に予防接種を行い、先天性風しん症候群（CRS）の発生を予防する。
- 風しんの抗体価が低い方への予防接種費用については大阪府と市町村で負担。

抗体検査事業

- 妊娠を希望する女性等に対し無料の抗体検査を実施。

【実施主体】 大阪府(府医師会に委託)

※政令市、中核市(吹田市除く)はそれぞれ独自に実施

【対象者】

- ①妊娠を希望する女性 ②妊娠を希望する女性の配偶者
- ③妊婦の配偶者 ④①の同居者 ⑤③の同居者

【実施場所】

府管轄保健所内市町村、吹田市及び大阪市に所在の協力医療機関（約1,700カ所 R7.6月時点）

R3.1月より府管内住民が大阪市内の医療機関において抗体検査が受検可能とした
(大阪市民の府管内医療機関での検査受検は不可)

予防接種事業

- 風しん抗体検査の結果、風しんの抗体価が低い方を対象に、予防接種費用を助成する市町村（政令・中核市含む）に対し、大阪府が補助を行う。

【実施主体】 各市町村

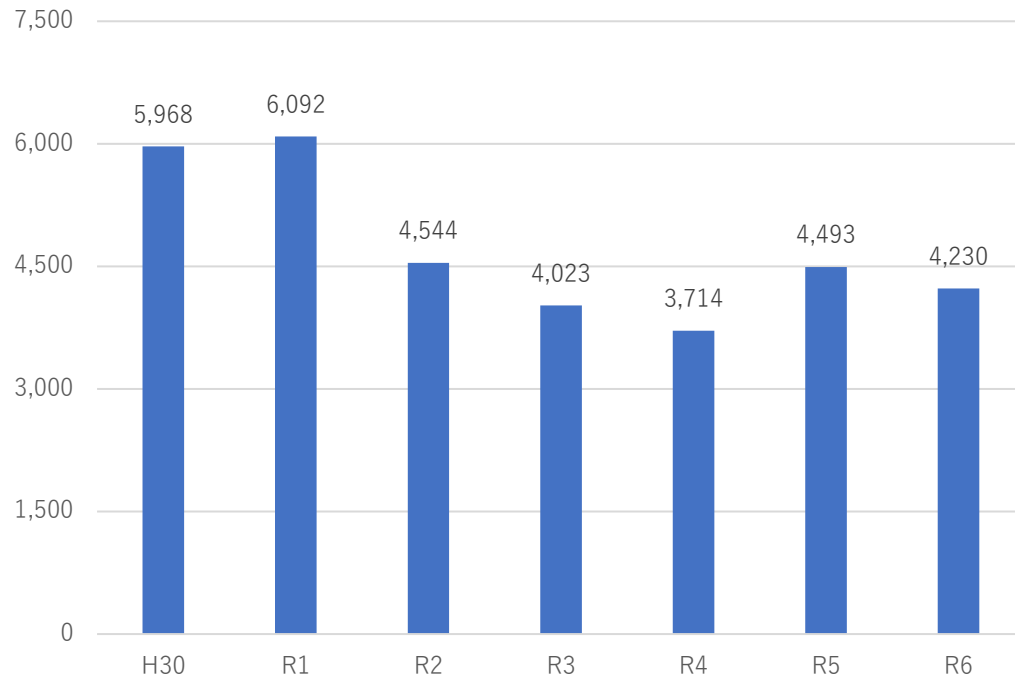
【補助率】 市町村に対し経費の1/2を大阪府が補助

- * 予防接種は「MRワクチン」「風しん単独ワクチン」のいずれも対象。
- * 自費で抗体検査を受検した結果、抗体価が低い方も対象とする。

【報告②】先天性風しん症候群対策事業

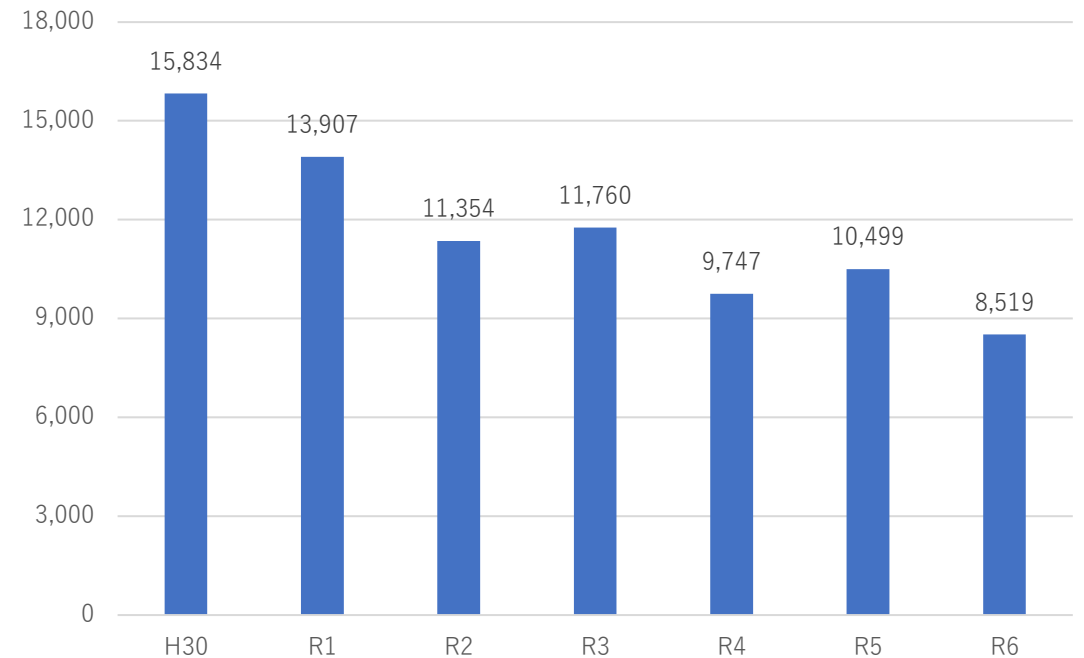
- 抗体検査は令和 6 年度においては4,230人の方が抗体検査を受検。
- 抗体が基準値に満たない方の予防接種は、令和 6 年度においては8,519人の方が接種を行った。

検査実績



※対象者は大阪府保健所管轄市町村(政令市、中核市含まず)

予防接種事業



※大阪府に補助金申請があった件数(府内全域)

風しん対策に関する取組

国	大阪府	市町村 (※政令市・中核市への聞取り含む)
- 風しんの追加的対策の実施 - ワクチンの不足に対し、ワクチン製造業者に増産・前倒し出荷を依頼 - 文部科学省に対し、教育関係部局と連携した情報提供及び積極的な接種勧奨の協力について依頼	- 国の補助金を活用し、風疹の抗体検査を実施 - 風しん抗体検査の結果、風しんの抗体価が低い方を対象に、予防接種費用を助成する市町村に対する補助 - HP等で予防接種に関する情報発信の実施を行うと共に、接種忘れが生じないように、SNS等を通じた注意喚起を実施	- 定期接種の実施主体として、対象者に対して予防接種を実施 - 府が実施する風しん抗体検査の結果、風しんの抗体価が低い方を対象に、予防接種費用の助成 - 第1期については、1歳児検診等に啓発チラシを配布。個別勧奨を実施する市町村もあり - 第2期については保育園や就学前検診時に啓発チラシの配布。ヒアリングしたすべての市町村で未接種者に個別勧奨を実施

論点

- 令和6年度のMRワクチンの府内接種率は91.5%であり、国が目標としている接種率95%を下回っている状況。
- 接種率の向上を図るため、対象者等に対し、どのように情報発信を行っていくべきか。また、本日の報告を踏まえ、今後大阪府としてどのような点に留意する必要があるか。ご意見を頂きたい。